

空間イメージに関する日韓比較研究：5つの空間領域（前、後ろ、真ん中、端っこ、隅っこ）からの考察

著者	小西 啓史, 野沢 久美子
雑誌名	武蔵野大学人間科学研究所年報
号	6
ページ	75-90
発行年	2017-03-01
URL	http://id.nii.ac.jp/1419/00000559/

空間イメージに関する日韓比較研究

— 5つの空間領域(前、後ろ、真ん中、端っこ、隅っこ)からの考察 —

A Study on Comparison in Japanese and Korean about the Image of Five Spaces (Front, Back, Center, Edge, Corner).

5 개의 공간 (앞, 뒤, 가운데 (중앙), 가장자리, 모서리) 의 이미지에 대한
일본인과 한국인의 비교 연구.

小 西 啓 史*
KONISHI, Hiroshi

野 沢 久美子**
NOZAWA, Kumiko

要 約

われわれは、自分を取り巻いている空間をいくつかの領域に分けて認識している。本研究は、「前」、「後ろ」、「真ん中」、「端っこ」、「隅っこ」という空間表現語であらわされる5つの空間領域に対して、韓国人がもっているイメージを明らかにすることを、また、こうしたイメージの日本人と韓国人の違いを明らかにすることを目的とする。

研究1 韓国の大学生を対象に調査を行った。調査対象者は115名(男性51名、女性64名)であった。5つの空間領域(「前」「後ろ」「真ん中」「端っこ」「隅っこ」)を対象に、15個の形容詞対を用いて、これら領域に対するイメージを聞いた。

形容詞対ごとに平均得点を分析した結果、「前」は活発で積極的、力強いイメージが、「真ん中」は暖かくて陽気なイメージが、「端っこ」は冷たく陰気なイメージが、「隅っこ」は不活発で静的なイメージがあることが明らかになった。「後ろ」は不活発で消極的なイメージだったが、他の4領域ほどには明確なイメージはなかった。

次に、得られた全データを用いて因子分析を行った。その結果、「活動性因子」「評価性因子」「力量性因子」の3因子が抽出された。この3因子をもとに領域ごとの平均得点を出したところ、「前」や「真ん中」は活動的で力強いイメージが、「後ろ」「端っこ」「隅っこ」は消極的なイメージがあることが明らかになった。特に「隅っこ」は弱々しいイメージが強かった。また、「前」や「真ん中」は好ましいイメージがあり、「後ろ」「端っこ」「隅っこ」は好ましくないイメージがあった。

研究2 研究1で得られた結果と、日本人を対象とした研究の結果(小西・野沢, 2016)

* 人間科学研究所研究員／人間科学部人間科学科 ** 武蔵野大学通信教育部

を比較した。その結果、全般的な傾向は類似しているが、「端っこ」や「隅っこ」に対して、日本人は比較的好意的にとらえているが、韓国人は否定的にとらえていることが明らかになった。

キーワード：空間領域、空間イメージ、空間表現語、日韓比較

요 약

연구 1 한국인이 5 개의 공간영역 (앞, 뒤, 가운데 (중앙), 가장자리, 모서리)에 대하여 품는 이미지를 측정했다. 그 결과, 「앞」과 「가운데 (중앙)」는 활발하고 적극적이며, 쾌활한 이미지가 있는 것으로 나타났다. 한편, 「가장자리」와 「모서리」는 차갑고 어두운 이미지가 있는 것으로 나타났다. 「뒤」도 「가장자리」, 「모서리」와 비슷한 경향을 보였지만, 이들 2 영역만큼 명확한 이미지는 없었다.

연구 2 일본인과 한국인이 5 개의 공간영역 (앞, 뒤, 가운데 (중앙), 가장자리, 모서리)에 대하여 품는 이미지를 비교했다. 그 결과, 일본인과 한국인 모두 「앞」과 「가운데 (중앙)」는 활발하고 적극적인 이미지를, 「가장자리」와 「모서리」는 어둡고 소극적인 이미지를 가지고 있는 것으로 나타났다. 또, 「가장자리」나 「모서리」에 대하여 한국인은 바람직한 이미지를 가지고 있지 않는 데 비해, 일본인은 다소 바람직한 이미지를 가지고 있는 것으로 나타났다.

키워드：공간 영역, 공간 이미지, 공간 표현 단어, 한일 비교

問 題

隈・高井 (2010) は、日本建築の特徴として、縁側、軒、庇などを例に、内と外の境界が曖昧であることをあげている。また、境界表示物である暖簾、襖、障子などは、内と外の世界を「つながりつつも区切る」柔らかな境界であると述べている。

韓国の伝統家屋の様式に대청 (大庁) がある。대청は안방 (一房) と건넌방 (一房) という 2 つの部屋の間にある広い마루 (板の間) で、それぞれの部屋に出入りする通路として使われ、庭に広がる開放空間になっている (하우징・スタディ・グループ, 1991; 김・김・양, 2005; 申・金, 2005; 都市住宅研究会, 1996; 吉田, 1986 など)。また、各部屋へは玄関のような一か所からの出入りではなく、마당 (庭) を通って出入りする。部屋 (内) と庭 (外) の境界部分には툇마루 (縁側) があり、境界表示物としての미닫이 (障子) がある。韓国の伝統家屋も日本と同様に室内外の境界が薄い。このように、日韓の住宅様式は内と外の境界が曖昧な点に共通性があると考えられる。

われわれは、自分を取り巻いている空間をいくつかの領域に分けて認識している (今井, 1978; 小西・北岡・荒井・中屋, 2000 など)。小西・野沢 (2015) は、教室空間での研究をとおして「前」、「後ろ」、「真ん中」、「端っこ」、「隅っこ」という空間表現語であらわ

される5つの領域が存在していることを明らかにした。

一般には、「前」や「中央」は比較的好ましい空間として、「後ろ」や「端」、「隅」は否定的なイメージでとらえられることが多い。しかし、小西・野沢（2016）は、空間領域に対する好ましさは一定ではなく、状況によって変わることを明らかにした。すなわち「端っこ」や「隅っこ」も好ましく思われることがある。

本研究では、韓国人がもつ空間イメージを明らかにし、同時に、こうした空間イメージについて日本人と韓国人を比較することを目的とする。

研 究 1

方法

調査対象者 大韓民国ソウル特別市の中央大学校学生 115 名（男性 51 名、女性 64 名）が調査に協力した。

手続き 授業時間を利用して質問紙に回答を求めた。質問紙では5つの空間領域（前、後ろ、真ん中、端っこ、隅っこ）のイメージを15個の形容詞対を用いて5段階評価で聞いた。形容詞対は、井上・小林（1985）からSD法において使用頻度の高いものおよび空間イメージに関するものを選んで用いた。これは小西・野沢（2015, 2016）においても使用されたものである。今回はこの尺度を韓国語に翻訳して用いた。翻訳については native check を受けた。

結果と考察

欠損値の多いデータを除いた結果、有効データは合計 144 名（男性 51 名、女性 63 名）であった。以下、このデータを用いて分析した。分析には SPSS ver.24 を用いた。

1. 評価項目（形容詞対）をもとにした5領域のイメージ

Table 1 は、領域ごとに15個の評価項目（形容詞対）の平均得点を示したものである。対応のある一元配置の分散分析を行った結果、すべての項目において有意差が認められた。同時にペアごとの比較（Bonferroni の方法）も行った。以下に詳細な分析結果を示す。

(1) やわらかい－かたい 5 領域間で有意差が認められた ($F(4,452)=85.993, p<0.001$)。多重比較を行った結果、「前－後ろ」を除くすべてのペア間に5%水準で有意差が認められた。すなわち、「真ん中」はやわらかいというイメージがあり、「端っこ」「隅っこ」はかたいイメージがあった。

(2) 活発な－不活発な 5 領域間で有意差が認められた ($F(4,452)=84.205, p<0.001$)。多重比較を行った結果、「前－後ろ」「前－端っこ」「前－隅っこ」「後ろ－真ん中」「真ん中－端っこ」「真ん中－隅っこ」「端っこ－隅っこ」において5%水準で有意差が認められた。すなわち、「前」、次いで「真ん中」は活発なイメージがあり、「後ろ」「端っこ」「隅っこ」は不活発なイメージがあった。特に、「前」は活発なイメージが強かった。

(3) 気持ちの良い－気持ちの悪い 5 領域間で有意差が認められた ($F(4,452)=45.812, p<0.001$)。多重比較を行った結果、「前－後ろ」「前－端っこ」「前－隅っこ」「後ろ－真ん中」「後ろ－隅っこ」「真ん中－端っこ」「真ん中－隅っこ」「端っこ－隅っこ」において5%

Table 1 領域別平均得点（評価項目（形容詞対））

（ ）は標準偏差

	1. やわらかい —かたい	2. 活発な —不活発な	3. 気持ちの良い —気持ちの悪い	4. 暖かい —冷たい	5. 広い —狭い	6. 良い —悪い	7. 積極的な —消極的な	8. うるさい —静かな
前	3.11 (1.13)	4.11 (0.96)	3.61 (0.88)	3.38 (1.03)	3.59 (1.20)	3.79 (0.88)	4.28 (0.81)	3.55 (0.98)
後ろ	3.01 (1.12)	2.30 (1.12)	2.73 (0.82)	2.77 (1.10)	3.11 (1.12)	2.86 (0.85)	2.30 (0.90)	2.25 (1.07)
真ん中	3.82 (1.00)	3.75 (1.06)	3.66 (0.91)	3.69 (0.95)	3.81 (1.15)	3.85 (0.86)	3.73 (1.02)	3.36 (1.08)
端っこ	2.23 (1.13)	2.25 (1.04)	2.80 (0.84)	2.36 (0.96)	2.01 (1.07)	3.01 (0.86)	2.26 (0.96)	2.21 (0.91)
隅っこ	1.45 (0.85)	2.25 (1.14)	2.40 (0.90)	1.85 (0.85)	1.54 (0.82)	2.66 (0.81)	2.41 (1.05)	2.39 (1.09)

	9. 陽気な —陰気な	10. 強い —弱い	11. 鋭い —鈍い	12. 好きな —嫌いな	13. 動的な —静的な	14. 明るい —暗い	15. 派手な —地味な
前	4.14 (0.80)	3.88 (0.88)	3.45 (0.83)	3.61 (0.88)	3.97 (1.00)	4.20 (0.75)	3.69 (1.01)
後ろ	2.41 (0.88)	2.83 (1.10)	2.54 (1.01)	2.89 (0.84)	2.35 (1.02)	2.24 (1.02)	2.47 (0.84)
真ん中	3.80 (0.87)	3.24 (0.92)	2.67 (0.79)	3.73 (0.89)	3.36 (1.20)	3.89 (0.94)	3.32 (1.03)
端っこ	2.46 (0.92)	2.96 (1.13)	3.54 (1.16)	2.97 (0.93)	2.34 (1.04)	2.40 (0.94)	2.60 (1.01)
隅っこ	2.35 (0.90)	3.68 (1.25)	4.48 (0.91)	2.73 (0.93)	2.35 (1.15)	2.30 (0.95)	2.76 (1.05)

水準で有意差が認められた。すなわち、「前」と「真ん中」は気持ちの良いイメージが、「隅っこ」は気持ちの悪いイメージがあった。

(4) 暖かい—冷たい 5領域間で有意差が認められた ($F(4,452)=62.998$, $p<0.001$)。多重比較を行った結果、「前—真ん中」を除くすべてのペア間において5%水準で有意差が認められた。すなわち、「前」と「真ん中」は暖かいイメージが、「端っこ」「隅っこ」は冷たいイメージがあった。特に「真ん中」は暖かいイメージが、「隅っこ」は冷たいイメージが強かった。

(5) 広い—狭い 5領域間で有意差が認められた ($F(4,452)=95.443$, $p<0.001$)。多重比較を行った結果、「前—真ん中」を除くすべてのペア間において5%水準で有意差が認められた。すなわち、「真ん中」「前」「後ろ」「端っこ」「隅っこ」の順で広さのイメージに違いがあった。特に、「真ん中」は広いイメージが、「隅っこ」は狭いイメージがあった。

(6) 良い—悪い 5領域間で有意差が認められた ($F(4,452)=46.986$, $p<0.001$)。多重比較を行った結果、「前—後ろ」「前—端っこ」「前—隅っこ」「後ろ—真ん中」「真ん中—端っこ」「真ん中—隅っこ」「端っこ—隅っこ」において5%水準で有意差が認められた。すなわち、「前」と「真ん中」は良いイメージが、「隅っこ」は悪いイメージがあった。

(7) 積極的な—消極的な 5領域間で有意差が認められた ($F(4,452)=105.115$, $p<0.001$)。多重比較を行った結果、「前—後ろ」「前—真ん中」「前—端っこ」「前—隅っこ」「後ろ—真ん中」「真ん中—端っこ」「真ん中—隅っこ」において5%水準で有意差が認められた。すなわち、「前」と「真ん中」は積極的なイメージが、「後ろ」「端っこ」「隅っこ」

は消極的なイメージがあった。特に、「前」は積極的なイメージが、「後ろ」「端っこ」「隅っこ」は消極的なイメージが強かった。

(8) うるさい－静かな 5領域間で有意差が認められた ($F(4,452)=45.716$, $p<0.001$)。多重比較を行った結果、「前－後ろ」「前－端っこ」「前－隅っこ」「後ろ－真ん中」「真ん中－端っこ」「真ん中－隅っこ」において5%水準で有意差が認められた。すなわち、「前」や「真ん中」にはうるさいイメージが、「後ろ」「端っこ」「隅っこ」は静かなイメージがあった。

(9) 陽気な－陰気な 5領域間で有意差が認められた ($F(4,452)=108.233$, $p<0.001$)。多重比較を行った結果、「後ろ－端っこ」「後ろ－隅っこ」を除くすべてのペア間において5%水準で有意差が認められた。すなわち、「前」と「真ん中」は陽気なイメージが、「後ろ」「端っこ」「隅っこ」は陰気なイメージがあった。

(10) 強い－弱い 5領域間で有意差が認められた ($F(4,452)=19.828$, $p<0.001$)。多重比較を行った結果、「前－後ろ」「前－真ん中」「前－端っこ」「後ろ－真ん中」「後ろ－隅っこ」「真ん中－隅っこ」「端っこ－隅っこ」において5%水準で有意差が認められた。一方、「前－隅っこ」「後ろ－端っこ」「真ん中－端っこ」においては有意差は認められなかった。すなわち、「前」「隅っこ」は強いイメージがあった。特に「前」は強いイメージが強かった。

(11) 鋭い－鈍い 5領域間で有意差が認められた ($F(4,452)=75.758$, $p<0.001$)。多重比較を行った結果、「前－後ろ」「前－真ん中」「前－隅っこ」「後ろ－端っこ」「後ろ－隅っこ」「真ん中－端っこ」「真ん中－隅っこ」「端っこ－隅っこ」において5%水準で有意差が認められた。すなわち、「前」「端っこ」「隅っこ」には鋭いイメージがあった。

(12) 好きな－嫌いな 5領域間で有意差が認められた ($F(4,452)=28.683$, $p<0.001$)。多重比較を行った結果、「前－後ろ」「前－端っこ」「前－隅っこ」「後ろ－真ん中」「真ん中－端っこ」「真ん中－隅っこ」において5%水準で有意差が認められた。一方、「前－真ん中」「後ろ－端っこ」「後ろ－隅っこ」においては有意差は認められなかった。すなわち、「前」「真ん中」は好ましいイメージがあった。

(13) 動的な－静的な 5領域間で有意差が認められた ($F(4,452)=53.861$, $p<0.001$)。多重比較を行った結果、「前－後ろ」「前－真ん中」「前－端っこ」「前－隅っこ」「後ろ－真ん中」「真ん中－端っこ」「真ん中－隅っこ」において5%水準で有意差が認められた。すなわち、「前」と「真ん中」は動的なイメージが、「後ろ」「端っこ」「隅っこ」は静的なイメージがあった。特に、「前」は動的なイメージが強かった。

(14) 明るい－暗い 5領域間で有意差が認められた ($F(4,452)=115.747$, $p<0.001$)。多重比較を行った結果、「前－後ろ」「前－真ん中」「前－端っこ」「前－隅っこ」「後ろ－真ん中」「真ん中－端っこ」「真ん中－隅っこ」において5%水準で有意差が認められた。すなわち、「前」と「真ん中」は明るいイメージが、「後ろ」「端っこ」「隅っこ」は暗いイメージがあった。特に、「前」は明るいイメージがあった。

(15) 派手な－地味な 5領域間で有意差が認められた ($F(4,452)=28.407$, $p<0.001$)。多重比較を行った結果、「前－後ろ」「前－真ん中」「前－端っこ」「前－隅っこ」「後ろ－真ん中」「真ん中－端っこ」「真ん中－隅っこ」において5%水準で有意差が認められた。すなわち、「前」と「真ん中」は派手なイメージが、「後ろ」「端っこ」「隅っこ」は地味なイメージがあった。

Table 2 領域のイメージ (Table 1 のまとめ)

評価項目	前	後ろ	真ん中	端っこ	隅っこ
1 やわらかい—かたい			やわらかい	かたい	かたい○
2 活発な—不活発な	活発な○	不活発な	活発な	不活発な	不活発な
3 気持ちの良い—気持ちの悪い	気持ちの良い		気持ちの良い		気持ちの悪い
4 暖かい—冷たい	暖かい		暖かい	冷たい	冷たい○
5 広い—狭い	広い		広い	狭い	狭い○
6 良い—悪い	良い		良い		悪い
7 積極的な—消極的な	積極的な○	消極的な	積極的な	消極的な	消極的な
8 うるさい—静かな	うるさい	静かな	うるさい	静かな	静かな
9 陽気な—陰気な	陽気な○	陰気な	陽気な	陰気な	陰気な
10 強い—弱い	強い				強い
11 鋭い—鈍い	鋭い	鈍い	鈍い	鋭い	鋭い○
12 好きな—嫌いな	好きな		好きな		
13 動的な—静的な	動的な	静的な	動的な	静的な	静的な
14 明るい—暗い	明るい○	暗い	明るい	暗い	
15 派手な—地味な	派手な	地味な	派手な	地味な	

*平均値が 3.3 以上、2.7 以下の項目を記入。そのうち 4.0 以上、2.0 以下には○をつけた。

以上の結果を整理したのが Table 2 である。これを見ると「前」「真ん中」「端っこ」「隅っこ」の 4 領域は比較的固定したイメージがあるが、これらに比べると「後ろ」のイメージは曖昧で必ずしも固定的なものではないことがわかる。

2. 因子分析によって抽出された因子をもとにした 5 領域のイメージ

5 領域のイメージ調査で得られたすべてのデータを対象に 1 回目の因子分析（主因子法、Varimax 回転）を行ったところ、3 因子が抽出された。内的整合性を検討するために α 係数を算出したところ、第 1 因子で $\alpha=0.911$ 、第 2 因子で $\alpha=0.851$ と十分な値が得られたが、第 3 因子は $\alpha=-0.040$ であった。これは（10）強い—弱い、（11）鋭い—鈍いの 2 項目が負の因子負荷量を示したためであると考えられる。そこで、この 2 項目を逆転処理して 2 回目の因子分析を行った。その結果、今回も 3 因子が抽出された。この中で因子負荷量の低かった（11）鋭い—鈍いを除いた 14 項目で 3 回目の因子分析を行った。固有値の減衰状況と因子の解釈可能性から 3 因子解を採用した（Table 3）。内的整合性を検討するために α 係数を算出したところ、第 1 因子で $\alpha=0.895$ 、第 2 因子で $\alpha=0.844$ 、第 3 因子で $\alpha=0.674$ の値が得られた。そこで抽出された 3 つの因子に対し、“活動性因子”“評価性因子”“力量性因子”と名付けた^{注)}。

3 因子の得点の平均得点を領域別に示したのが Table 4 である。一元配置の分散分析と同時にペアごとの比較（Bonferroni の方法）も行った。以下、因子ごとに分析結果を示す。

(1) **活動性因子** 領域間に有意差が認められた ($F(4,3644)=441.957$, $p<0.001$)。多重比較を行った結果、「後ろ—端っこ」「端っこ—隅っこ」を除くすべての組み合わせにおいて 1% 水準で有意差が認められた。

(2) **評価性因子** 領域間に有意差が認められた ($F(4,1820)=174.153$, $p<0.001$)。多重比較を行った結果、「前—真ん中」「後ろ—端っこ」を除くすべての組み合わせにおいて 1%

Table 3 領域のイメージ（因子分析）

	I	II	III	共通性
7 積極的な—消極的な	0.820	0.267	0.101	0.755
8 うるさい—静かな	0.778	0.113	0.103	0.629
13 動的な—静的な	0.738	0.167	0.174	0.604
2 活発な—不活発な	0.717	0.236	0.266	0.641
9 陽気な—陰気な	0.660	0.481	0.202	0.708
15 派手な—地味な	0.657	0.144	-0.033	0.454
14 明るい—暗い	0.610	0.465	0.212	0.634
10 強い—弱い	0.364	0.194	-0.340	0.285
6 良い—悪い	0.227	0.804	0.160	0.723
12 好きな—嫌いな	0.196	0.801	0.051	0.683
3 気持ちの良い—気持ちの悪い	0.222	0.727	0.214	0.623
4 暖かい—冷たい	0.220	0.509	0.449	0.509
1 やわらかい—かたい	0.168	0.324	0.733	0.670
5 広い—狭い	0.373	0.278	0.450	0.419
固有値	4.066	2.930	1.339	
寄与率（%）	29.043	20.930	9.567	
累積寄与率（%）	29.043	49.973	59.539	

Table 4 領域別ごとの「活動性」「評価性」「力量性」因子の平均得点
() は標準偏差

因子名	前	後ろ	真ん中	端っこ	隅っこ
活動性	3.98 (0.94)	2.39 (1.01)	3.56 (1.05)	2.44 (1.02)	2.56 (1.16)
評価性	3.60 (0.93)	2.81 (0.91)	3.73 (0.90)	2.79 (0.93)	2.41 (0.94)
力量性	3.35 (1.18)	3.06 (1.12)	3.31 (1.08)	2.12 (1.10)	1.49 (0.84)

水準で有意差が認められた。

(3) **力量性因子** 領域間に有意差が認められた ($F(4,908)=176.947, p<0.001$)。多重比較を行った結果、「前—後ろ」を除くすべての組み合わせにおいて1%水準で有意差が認められた。

これらの結果から、「前」や「真ん中」は活動的で力強いイメージが、「後ろ」「端っこ」「隅っこ」は消極的なイメージがあることが明らかになった。特に「隅っこ」は力強さのイメージが低かった。また、「前」や「真ん中」は好ましいイメージがあり、「後ろ」「端っこ」「隅っこ」は好ましくないイメージがあることが明らかになった。

研 究 2

方法

調査対象者と手続き 前報（小西・野沢, 2016）で収集した日本人大学生を対象としたデー

タ（165名）と、今回収集した韓国人大学生を対象としたデータ（114名）を用いて両者の比較を行った。

結果と考察

日本人を対象にした研究の分析結果と、韓国人を対象にした研究の分析結果を比較した。分析には SPSS ver.24 を用いた。

1. 評価項目（形容詞対）をもとにした5領域のイメージの日韓比較

Table 5は、日本人を対象とした評価項目ごとの領域別平均得点と、韓国人を対象とした評価項目ごとの領域別平均得点を併記したものである。以下に示すように、日本人と韓国人では5つの空間領域に対するイメージに多くの違いが認められた。なお、日韓とも因子分析で除外された（11）鋭い—鈍いは比較対象としなかった。

〈前〉に対するイメージ

- (1) やわらかい—かたい 有意差が認められた ($t(277)=-4.026, p<0.001$)。日本人はかたいイメージがある。
- (2) 活発な—不活発な 有意差は認められなかった。日韓ともに非常に活発なイメージがある。
- (3) 気持ちの良い—気持ちの悪い 有意差が認められた ($t(277)=-2.216, p<0.05$)。日韓ともに気持ちの良いイメージがあるが、韓国人にこの傾向が強い。
- (4) 暖かい—冷たい 有意差は認められなかった。日韓ともに暖かいイメージがある。
- (5) 広い—狭い 有意差は認められなかった。日韓ともに広いイメージがある。
- (6) 良い—悪い 有意差が認められた ($t(277)=-2.230, p<0.05$)。日韓ともに良いイメージがあるが、韓国人にこの傾向が強い。
- (7) 積極的な—消極的な 有意差は認められなかった。日韓ともに積極的なイメージがある。
- (8) うるさい—静かな 有意差が認められた ($t(277)=-3.450, p<0.001$)。韓国人はうるさいイメージがある。
- (9) 陽気な—陰気な 有意差が認められた ($t(277)=-5.207, p<0.001$)。日韓ともに陽気なイメージがあるが、韓国人にこの傾向が強い。
- (10) 強い—弱い 有意差が認められた ($t(277)=-2.350, p<0.05$)。日韓ともに強いイメージがあるが、韓国人にこの傾向が強い。
- (12) 好きな—嫌いな 有意差が認められた ($t(277)=-4.230, p<0.001$)。特に韓国人は非常に好ましいイメージがある。
- (13) 動的な—静的な 有意差が認められた ($t(277)=-2.396, p<0.05$)。日韓ともに動的なイメージがあるが、韓国人にこの傾向が強い。
- (14) 明るい—暗い 有意差が認められた ($t(277)=-4.079, p<0.05$)。日韓ともに明るいイメージがあるが、韓国人にこの傾向が強く、非常に明るいイメージをもっている。
- (15) 派手な—地味な 有意差は認められなかった。日本人、韓国人ともに派手なイメージがある。

以上の結果から、日本人、韓国人ともに「前」に対しては活動的で好ましいイメージをもっており、韓国人にその傾向が非常に強いことが明らかになった。

〈後ろ〉に対するイメージ

- (1) やわらかい—かたい 有意差は認められなかった。日韓ともに明確なイメージがない。
- (2) 活発な—不活発な 有意差は認められなかった。日韓ともに不活発なイメージがある。
- (3) 気持ちの良い—気持ちの悪い 有意差が認められた ($t(277)=3.496, p<0.001$)。韓国人はあまり気持ちの良いイメージがない。
- (4) 暖かい—冷たい 有意差は認められなかった。日韓ともにやや冷たいイメージがある。
- (5) 広い—狭い 有意差は認められなかった。日韓ともにやや広いイメージがあるがそれほど明確なものではない。
- (6) 良い—悪い 有意差は認められなかった。韓国人はやや悪いイメージがある。
- (7) 積極的な—消極的な 有意差は認められなかった。日韓ともに消極的なイメージがある。
- (8) うるさい—静かな 有意差が認められた ($t(277)=5.192, p<0.001$)。韓国人は非常に静かなイメージがある。
- (9) 陽気な—陰気な 有意差が認められた ($t(277)=3.873, p<0.001$)。韓国人は非常に陰気なイメージがある。
- (10) 強い—弱い 有意差は認められなかった。日韓ともに明確なイメージがない。
- (12) 好きな—嫌いな 有意差が認められた ($t(277)=2.489, p<0.01$)。日本人はやや好ましいイメージが、韓国人はやや好ましくないイメージがある。
- (13) 動的な—静的な 有意差が認められた ($t(277)=3.401, p<0.001$)。日韓ともに静的なイメージがあるが、韓国人にこの傾向が強い。
- (14) 明るい—暗い 有意差が認められた ($t(277)=4.742, p<0.001$)。日韓ともにやや暗いイメージがあるが、韓国人にこの傾向が強い。
- (15) 派手な—地味な 有意差が認められた ($t(277)=3.062, p<0.001$)。日韓ともにやや地味なイメージがあるが、韓国人にこの傾向が強い。

以上の結果から、日本人、韓国人ともに「後ろ」に対して不活発で暗いイメージをもっており、韓国人にその傾向が強いことが明らかになった。また、日本人は「後ろ」に対して、それほど否定的なイメージをもっていない（(6) 良い—悪い：3.01、(12) 好きな—嫌いな：3.19）が、韓国人はやや否定的なイメージをもっている（(6) 良い—悪い：2.86、(12) 好きな—嫌いな：2.89）ことが明らかになった。

「後ろ」に対するイメージは、前報（小西・野沢，2016）の Table 2、本研究の Table 2 に見られるように、日本人、韓国人ともに他の4領域に比べてあまり明確ではなかった。

〈真ん中〉に対するイメージ

- (1) やわらかい—かたい 有意差が認められた ($t(277)=-3.297, p<0.001$)。日韓ともにやわらかいイメージがあるが、韓国人にこの傾向が強い。
- (2) 活発な—不活発な 有意差が認められた ($t(277)=-2.655, p<0.01$)。日韓ともに活発なイメージがあるが、韓国人にこの傾向が強い。

- (3) 気持ちの良い—気持ちの悪い 有意差が認められた ($t(277)=-4.174$, $p<0.001$)。日韓ともに気持ちの良いイメージがあるが、韓国人にこの傾向が強い。
- (4) 暖かい—冷たい 有意差は認められなかった。日韓ともに暖かいイメージがある。
- (5) 広い—狭い 有意差が認められた ($t(277)=-6.765$, $p<0.001$)。日本人はあまり広いイメージがない（むしろ狭く感じている）が、韓国人は非常に広いイメージがある。
- (6) 良い—悪い 有意差が認められた ($t(277)=-4.327$, $p<0.001$)。日韓ともに良いイメージがあるが、韓国人にこの傾向が強い。
- (7) 積極的な—消極的な 有意差が認められた ($t(277)=-3.542$, $p<0.001$)。日韓ともに積極的なイメージがあるが、韓国人にこの傾向が強い。
- (8) うるさい—静かな 有意差は認められなかった。日韓ともにややうるさいイメージがある。
- (9) 陽気な—陰気な 有意差が認められた ($t(277)=-3.322$, $p<0.001$)。日韓ともに陽気なイメージがあるが、韓国人にこの傾向が強い。
- (10) 強い—弱い 有意差は認められなかった。日韓ともにやや強いイメージがある。
- (12) 好きな—嫌いな 有意差が認められた ($t(277)=-2.781$, $p<0.01$)。日韓ともに好ましいイメージがあるが、韓国人にこの傾向が強い。
- (13) 動的な—静的な 有意差は認められなかった。日韓ともにやや動的なイメージがある。
- (14) 明るい—暗い 有意差が認められた ($t(277)=-2.823$, $p<0.01$)。日韓ともに明るいイメージがあるが、韓国人にこの傾向が強い。
- (15) 派手な—地味な 有意差は認められなかった。日韓ともにやや派手なイメージがある。

以上の結果から、日本人、韓国人ともに「真ん中」に対しては、活動的で明るく好ましいイメージをもっており、韓国人にその傾向が強いことが明らかになった。

〈端っこ〉に対するイメージ

- (1) やわらかい—かたい 有意差は認められなかった。日韓ともにかたいイメージがある。
- (2) 活発な—不活発な 有意差は認められなかった。日韓ともに不活発なイメージがある。
- (3) 気持ちの良い—気持ちの悪い 有意差が認められた ($t(277)=3.387$, $p<0.001$)。日本人はやや気持ちの良いイメージが、韓国人はやや気持ちの悪いイメージがある。
- (4) 暖かい—冷たい 有意差は認められなかった。日韓ともに冷たいイメージがある。
- (5) 広い—狭い 有意差が認められた ($t(277)=2.032$, $p<0.05$)。日韓ともに狭いイメージがあるが、韓国人にこの傾向が強い。
- (6) 良い—悪い 有意差が認められた ($t(277)=1.965$, $p<0.05$)。日本人の方がやや好ましいイメージがある。
- (7) 積極的な—消極的な 有意差は認められなかった。日韓ともに消極的なイメージがある。
- (8) うるさい—静かな 有意差は認められなかった。日韓ともに静かなイメージがある。
- (9) 陽気な—陰気な 有意差は認められなかった。日韓ともに陰気なイメージがある。
- (10) 強い—弱い 有意差が認められた ($t(277)=-4.774$, $p<0.001$)。日本人はかなり弱いイメージがある。
- (12) 好きな—嫌いな 有意差が認められた ($t(277)=2.812$, $p<0.01$)。日本人は好ましい

イメージがある。

(13) 動的な—静的な 有意差が認められた ($t(277)=-2.446$, $p<0.05$)。日韓ともに静的なイメージがあるが、日本人にこの傾向が強い。

(14) 明るい—暗い 有意差は認められなかった。日韓ともに暗いイメージがある。

(15) 派手な—地味な 有意差が認められた ($t(277)=-3.641$, $p<0.001$)。日韓ともに地味なイメージがあるが、日本人にこの傾向が強い。

以上の結果から、日本人、韓国人ともに「端っこ」に対しては非常に不活発なイメージをもっていることが明らかになった。また、日本人は比較的好ましいイメージをもっていた（(3) 気持ちの良い—気持ちの悪い：3.20、(6) 良い—悪い：3.26、(12) 好きな—嫌いな：3.33）が、韓国人はやや否定的なイメージをもっていた。

〈隅っこ〉に対するイメージ

(1) やわらかい—かたい 有意差が認められた ($t(277)=6.825$, $p<0.001$)。日韓ともにかたいイメージがあるが、韓国人にこの傾向が強く、非常にかたいイメージがある。

(2) 活発な—不活発な 有意差が認められた ($t(277)=-3.386$, $p<0.001$)。日韓ともに不活発なイメージがあるが、日本人にこの傾向が強く、非常に不活発なイメージがある。

(3) 気持ちの良い—気持ちの悪い 有意差が認められた ($t(277)=4.679$, $p<0.001$)。韓国人は気持ちの悪いイメージがある。

(4) 暖かい—冷たい 有意差が認められた ($t(277)=3.286$, $p<0.001$)。日韓ともに冷たいイメージがあるが、韓国人にこの傾向が強く、非情に冷たいイメージがある。

(5) 広い—狭い 有意差が認められた ($t(277)=2.735$, $p<0.01$)。日韓ともに非常に狭いイメージがあるが、韓国人にこの傾向が強い。

(6) 良い—悪い 有意差が認められた ($t(277)=1.970$, $p<0.05$)。韓国人は悪いイメージがある。

(7) 積極的な—消極的な 有意差が認められた ($t(277)=-3.568$, $p<0.001$)。日韓ともに消極的なイメージがあるが、日本人にこの傾向が強い。

(8) うるさい—静かな 有意差が認められた ($t(277)=-4.696$, $p<0.001$)。日韓ともに静かなイメージがあるが、日本人にこの傾向が強く、非常に静かなイメージがある。

(9) 陽気な—陰気な 有意差が認められた ($t(277)=-2.815$, $p<0.001$)。日韓ともに陰気なイメージがあるが、日本人にこの傾向が強い。

(10) 強い—弱い 有意差が認められた ($t(277)=-11.358$, $p<0.001$)。日本人は非常に弱いイメージが、韓国人は強いイメージがある。日韓でいだいているイメージが大きく異なっている。

(12) 好きな—嫌いな 有意差が認められた ($t(277)=2.921$, $p<0.01$)。韓国人はあまり好ましいイメージがない。

(13) 動的な—静的な 有意差が認められた ($t(277)=-3.531$, $p<0.001$)。日韓ともに静的なイメージがあるが、日本人にこの傾向が強い。

(14) 明るい—暗い 有意差が認められた ($t(277)=-3.369$, $p<0.001$)。日韓ともに暗いイメージがあるが、日本人にこの傾向が強い。

(15) 派手な—地味な 有意差が認められた ($t(277)=-7.167$, $p<0.001$)。日韓ともに地味

Table 5 評価項目ごとの領域別平均得点（日韓比較）

有意差のあるものは太字で示した。

***p<0.001, **p<0.01, *p<0.05

〈前〉

（ ）は標準偏差

	1. やわらかい —かたい ***	2. 活発な —不活発な	3. 気持ちの良い —気持ちの悪い *	4. 暖かい —冷たい	5. 広い —狭い	6. 良い —悪い *	7. 積極的な —消極的な	8. うるさい —静かな ***
日本	2.58 (1.08)	4.22 (0.90)	3.35 (0.98)	3.36 (0.96)	3.35 (1.23)	3.53 (1.02)	4.36 (0.88)	3.07 (1.24)
韓国	3.11 (1.13)	4.11 (0.96)	3.61 (0.88)	3.38 (1.03)	3.59 (1.20)	3.79 (0.88)	4.28 (0.81)	3.55 (0.98)

	9. 陽気な —陰気な ***	10. 強い —弱い *	11. 鋭い —鈍い	12. 好きな —嫌いな ***	13. 動的な —静的な *	14. 明るい —暗い ***	15. 派手な —地味な
日本	3.53 (1.07)	3.60 (1.02)	3.45 (0.97)	3.13 (0.99)	3.65 (1.22)	3.71 (1.13)	3.49 (1.11)
韓国	4.14 0.80	3.88 0.88	3.45 0.83	3.61 0.88	3.97 1.00	4.20 0.75	3.69 1.01

〈後ろ〉

（ ）は標準偏差

	1. やわらかい —かたい	2. 活発な —不活発な	3. 気持ちの良い —気持ちの悪い ***	4. 暖かい —冷たい	5. 広い —狭い	6. 良い —悪い	7. 積極的な —消極的な	8. うるさい —静かな ***
日本	3.02 (1.17)	2.43 (1.24)	3.12 (0.99)	2.67 (1.02)	3.22 (1.26)	3.01 (1.13)	2.09 (1.00)	3.01 (1.30)
韓国	3.01 (1.12)	2.30 (1.12)	2.73 (0.82)	2.77 (1.10)	3.11 (1.12)	2.86 (0.85)	2.30 (0.90)	2.25 (1.07)

	9. 陽気な —陰気な ***	10. 強い —弱い	11. 鋭い —鈍い	12. 好きな —嫌いな **	13. 動的な —静的な ***	14. 明るい —暗い ***	15. 派手な —地味な **
日本	2.91 (1.16)	2.92 (1.13)	2.73 (1.02)	3.19 (1.09)	2.82 (1.22)	2.88 (1.17)	2.86 (1.15)
韓国	2.41 (0.88)	2.83 (1.10)	2.54 (1.01)	2.89 (0.84)	2.35 (1.02)	2.24 (1.02)	2.47 (0.84)

〈真ん中〉

（ ）は標準偏差

	1. やわらかい —かたい ***	2. 活発な —不活発な **	3. 気持ちの良い —気持ちの悪い ***	4. 暖かい —冷たい	5. 広い —狭い ***	6. 良い —悪い ***	7. 積極的な —消極的な ***	8. うるさい —静かな
日本	3.42 (0.96)	3.45 (0.86)	3.20 (0.93)	3.75 (0.90)	2.86 (1.15)	3.38 (0.93)	3.35 (0.79)	3.30 (0.91)
韓国	3.82 (1.00)	3.75 1.06	3.66 0.91	3.69 0.95	3.81 1.15	3.85 0.86	3.73 1.02	3.36 1.08

	9. 陽気な —陰気な ***	10. 強い —弱い	11. 鋭い —鈍い	12. 好きな —嫌いな **	13. 動的な —静的な	14. 明るい —暗い **	15. 派手な —地味な
日本	3.51 (0.83)	3.16 (0.73)	2.97 (0.72)	3.42 (0.90)	3.33 (0.89)	3.59 (0.86)	3.38 (0.76)
韓国	3.80 0.87	3.24 0.92	2.67 0.79	3.73 0.89	3.36 1.20	3.89 0.94	3.32 1.03

〈端っこ〉 () は標準偏差

	1. やわらかい —かたい ***	2. 活発な —不活発な ***	3. 気持ちの良い —気持ちの悪い ***	4. 暖かい —冷たい	5. 広い —狭い *	6. 良い —悪い *	7. 積極的な —消極的な	8. うるさい —静かな
日本	2.41 (1.14)	2.22 (1.12)	3.20 (1.05)	2.34 (1.02)	2.32 (1.34)	3.26 (1.17)	2.13 (0.91)	2.02 (0.98)
韓国	2.23 (1.13)	2.25 1.04	2.80 0.84	2.36 0.96	2.01 1.07	3.01 0.86	2.26 0.96	2.21 0.91

	9. 陽気な —陰気な **	10. 強い —弱い ***	11. 鋭い —鈍い	12. 好きな —嫌いな **	13. 動的な —静的な *	14. 明るい —暗い	15. 派手な —地味な ***
日本	2.37 (1.04)	2.37 (0.94)	2.93 (1.08)	3.33 (1.13)	2.04 (0.98)	2.33 (1.07)	2.16 (0.98)
韓国	2.46 0.92	2.96 1.13	3.54 1.16	2.97 0.93	2.34 1.04	2.40 0.94	2.60 1.01

〈隅っこ〉 () は標準偏差

	1. やわらかい —かたい ***	2. 活発な —不活発な ***	3. 気持ちの良い —気持ちの悪い ***	4. 暖かい —冷たい ***	5. 広い —狭い **	6. 良い —悪い *	7. 積極的な —消極的な ***	8. うるさい —静かな ***
日本	2.32 (1.17)	1.83 (0.95)	2.98 (1.06)	2.22 (0.98)	1.87 (1.13)	2.90 (1.11)	1.98 (0.97)	1.81 (0.96)
韓国	1.45 (0.85)	2.25 (1.14)	2.40 (0.90)	1.85 (0.85)	1.54 (0.82)	2.66 (0.81)	2.41 (1.05)	2.39 (1.09)

	9. 陽気な —陰気な **	10. 強い —弱い ***	11. 鋭い —鈍い	12. 好きな —嫌いな **	13. 動的な —静的な ***	14. 明るい —暗い ***	15. 派手な —地味な ***
日本	2.02 (1.01)	2.17 (0.96)	2.73 (1.10)	3.10 (1.13)	1.90 (0.96)	1.92 (0.90)	1.92 (0.91)
韓国	2.35 (0.90)	3.68 (1.25)	4.48 (0.91)	2.73 (0.93)	2.35 (1.15)	2.30 (0.95)	2.76 (1.05)

なイメージがあるが、日本人にこの傾向が強い。

以上の結果から、日本人、韓国人ともに「隅っこ」に対しては不活発で消極的なイメージをもっていることが明らかになった。特に日本人にこの傾向が顕著であったが、必ずしも否定的なイメージではなかった。一方、韓国人は非常に否定的なイメージをもっていた。

2. 因子分析の結果をもとにした5領域のイメージの日韓比較

日韓を比較するために、前報の日本人を対象とした結果を再掲する（Table 6）。日本人では「活動性・力量性」「評価性」の2因子が抽出され、「活動性・力量性」因子では領域間において有意差が認められた（ $F(4,8245)=746.83$, $p<0.001$ ）。また「評価性」因子でも領域間に有意差が認められた（ $F(4,2471)=10.27$, $p<0.001$ ）。これらの結果と多重比較の

Table 6 領域ごとの「活動性・力量性」「評価性」因子の平均得点（日本人）
() は標準偏差

因子名	前	後ろ	真ん中	端っこ	隅っこ
活動性・力量性	3.63 (1.14)	2.71 (1.20)	3.37 (0.90)	2.23 (1.05)	1.96 (0.98)
評価性	3.34 (1.01)	3.11 (1.07)	3.33 (0.93)	3.27 (1.12)	2.99 (1.10)

結果から、「前」や「真ん中」は活動的で力強いイメージがあるが、「後ろ」「端っこ」「隅っこ」には活動的なイメージがないこと、特に「隅っこ」は不活発なイメージが強いことが明らかになった。また、「前」や「真ん中」には好ましいイメージがあるが、それ以外の領域と大きな差はなかった。すなわち、「後ろ」「端っこ」にも肯定的なイメージをもっており、「隅っこ」にも否定的なイメージはなかった。

韓国人では、前述のように「活動性」「評価性」「力量性」の3因子が抽出され、「前」や「真ん中」は活動的で力強いイメージを、「後ろ」「端っこ」「隅っこ」は消極的なイメージをもっていた。特に「隅っこ」は力強さのないイメージが強かった。また、「前」や「真ん中」は非常に好ましいイメージが、「後ろ」「端っこ」「隅っこ」は好ましくないイメージがあることが明らかになった。

総 合 討 論

本研究では5つの領域に対するイメージを聞くことで日本人と韓国人の空間認識の違いについて検討した。その結果、全体的には類似した傾向が認められたが、韓国人は「前」「真ん中」に対しては活動的なイメージを強くもっており、それが肯定的なイメージにもつながっていた。また、「後ろ」「端っこ」「隅っこ」に対しては不活発で消極的なイメージをもっており、それが否定的なイメージにつながっていた。一方、日本人も韓国人と同様に「前」「真ん中」に対しては活動的なイメージを、「後ろ」「端っこ」「隅っこ」に対しては不活発で消極的なイメージをもっていた（「隅っこ」に対しては特にこの傾向が強かった）が、それら空間に対して必ずしも否定的なイメージをもっているわけではなかった。この点で両者に大きな違いがあった。

前々報で取り上げた「端っこ」への考察（朝日新聞,2014）や、前報で取り上げた「隅っこ」を特性としたキャラクターの人気があること（日経 MJ,2015）など、日本人の空間認識には特有の傾向があることが推測される。今後は、座席行動など実際の空間選択の違いや空間占有行動などについても比較することで、両国の共通点や相違点を明らかにしていきたい。

注)

主因子法、Promax 回転を用いた場合もほぼ同様の結果が得られた。

謝辞

本研究を実施するにあたり、質問紙の韓国語への翻訳、韓国語要約の執筆について適切なアドバイスを下さいました武蔵野大学教授李昌圭先生に心より御礼を申し上げます。調査の実施にあたっては韓国中央大学校教授金宰輝先生に大変お世話になりました。心より御礼を申し上げます。また、調査票の印刷、データの入力など協力いただいた中央大学校の学生さんたちにもこの場を借りて御礼を申し上げます。

引用文献

- 朝日新聞（2014）端っこをたどって 2014年5月26日～6月6日夕刊
ハウジング・スタディ・グループ（1990）韓国現代住居学—マダンとオンドルの住様式 建築知識
今井四朗（1978）指示代名詞の指示機能について 北海道大学文学部人文科学論集, 15, 1-16.
井上正明・小林利宣（1985）日本におけるSD法による研究分野とその形容詞対尺度構成の概観 教育

心理学研究,33,253-260.

김향금, 김민선, 양윤식 (2005) 어디 어디 숨었니? 곧은나두

小西啓史・北岡和彦・荒井理帆・中屋淑（2000）指示代名詞法を用いた個人空間の研究，人間研究，5，1-12

小西啓史・野沢久美子（2015）行動空間における領域感とその評価—空間表現語（前、後ろ、真ん中、端っこ、隅っこ）からの一考察— 武蔵野大学人間科学研究所年報，4，81-93.

小西啓史・野沢久美子（2016）空間イメージに関する研究—5つの空間領域（前、後ろ、真ん中、端っこ、隅っこ）からの考察— 武蔵野大学人間科学研究所年報，5，41-51.

隈研吾・高井潔（2010）境界—世界を変える日本の空間操縦術 淡交社

日経 MJ（2015）隅が好き 2015年1月19日（月曜日）

申栄勲・金大壁（2005）韓国の民家 法政大学出版社（西垣安比古監訳 李終姫・市岡実幸訳）

都市住居研究会（1996）異文化の葛藤と同化—韓国における「日式住宅」 建築資料研究社

吉田桂二（1986）日本人の「住まい」はどこから来たか 鳳山社

Appendix

「前(앞)」 「後ろ(뒤)」 「真ん中(가운데(중앙))」 「端っこ(가장자리)」 「隅っこ(모서리)」を対象に、以下にあげる評価項目に回答を求めた。

1 부드럽다 (やわらかい)		딱딱하다 (かたい)
2 활발하다 (活発な)		활발하지 않다 (不活発な)
3 기분이나쁘다 (気持ちの悪い)		기분이 좋다 (気持ちの良い)
4 차갑다 (冷たい)		따뜻하다 (暖かい)
5 넓다 (広い)		좁다 (狭い)
6 좋다(good)* (良い)		나쁘다 (悪い)
7 소극적이다 (消極的な)		적극적이다 (積極的な)
8 조용하다 (静かな)		시끄럽다 (うるさい)
9 쾌활하다 (陽気な)		음울하다 (陰気な)
10 약하다 (弱い)		강하다 (強い)
11 둔하다 (鈍い)		날카롭다 (鋭い)
12 좋다(like)* (好きな)		싫다 (嫌いな)
13 정적이다 (静的な)		동적이다 (動的な)
14 밝다 (明るい)		어둡다 (暗い)
15 수수하다 (地味な)		화려하다 (派手な)

*6좋다(good)、12좋다(like)は同じことばなので意味を明確にするために英語をつけた。